

令和4年度 日南町地域包括ケア会議の目標（年度評価）

令和 5年 6月21日

1. 地域における医療・介護の関係機関の連携を拡充する

(1) 毎週在宅支援会議を開催し、きめ細かい連携を図る

【50回開催 延1,146件】

○服薬支援を入口に生活全般の不具合がないかの視点をもって情報共有し、経過を追う

【23件について在宅支援会議にて検討した。】

○転倒・骨折事例について、どこで、どういう状態の時に発生したかの情報共有を行う

【在宅支援会議にて、45件について検討した。】

【百歳体操の集いで目標づくりの際、保健師が町の実態を説明し転倒予防の啓発を行った。】

○検討したケースの経過報告、モニタリングを意識して行う（在宅支援会議・自立支援検討会で検討したケース、福祉用具例外的使用事例、訪問介護生活援助が基準より多いケースについて）

【在宅支援会延1,146件 自立支援検討会15回、福祉用具例外的使用事例0件、訪問介護生活援助が基準超0件】

(2) 町内で定めた4つの連絡票様式（①鳥大様式参照の表紙、②サービス担当者会議の照会（依頼）内容、③認知症についての連絡票、④介護予防事業の利用にかかる主治医への照会）を活用し、より詳細な連携を図る

①鳥大病院様式 4件

②サービス担当者会議の照会 156件

③認知症連絡票 6件

④介護予防事業 9件

(3) 入退院時の連絡・連携のため、入退院連絡票（入院時情報提供書、カンファレンスシート等）の作成を確実に行う。（「入院情報連携加算」「退院・退所加算」の取得率を把握する、介護のみが加算対象）

居宅→病院 入院時情報提供

（提供先）

日南病院 67件 日野病院 21件 西伯病院 1件 労災病院 6件 鳥大病院 6件
米子医療センター4件 （計105件）

(4) ICTを活用し連携を図る

○情報連携ツール「パッと見えNet」を活用し、情報共有を行う

【日南病院 40件 日野病院 19件】

○状況に応じて担当者会議等へのリモート参加ができるようにする

【あかね荘もふくめ随時開催。他病院のリモート会議にも参加した】

○出前講座について、ICTの活用を検討する

【リモート開催が可能な百歳体操会場では、コロナ流行時に講師が現地に出向くことが難しい場合に、リモート開催した。 1団体（講師：日南病院 薬剤師）】

【百歳体操の集いで、日南病院PTによる体力測定をリモートで実施した。

大宮、阿毘縁、山上、多里地域。20会場、153人に実施】

(5) 介護保険ファイルを関係機関の共通ツールとして活用し、情報が引き継がれるようにする

【介護保険ファイル配布数 52冊】

(6) 町内歯科医院との連携、鳥取県西部歯科医師会地域歯科医療連携室の活用を行う

【未実施】

(7) 企画会議や在宅支援会議の場を活用して感染症や災害時対応の取り組みについて随時協議・情報共有を行う

【企画会議、在宅支援会議で対応状況の共有を毎回行っている】

2. 地域住民（地域活動）と保健・医療・介護・福祉専門職の連携を行う

(1) 専門職が出前講座隊として出向き、住民と顔の見える関係づくり、地域活動支援を行う

【30回（内訳：薬について1回、救急キット・防災2回、栄養11回、介護予防エクササイズ3回、消費者被害1回、介護保険2回、認知症3件、看取りケア2回、音読会1回、飲み込みについて1回、関節・体操3回）】

(2) 要介護認定者のサービス担当者会議で、避難行動計画についても検討するとともに支え愛マップ作りなど、地域支え愛ネットワーク活動に専門職が参加する

【町社協：まち協役員会6回、支え愛マップ作り3回、支え愛アンケート後の訪問2地域】

【要介護認定者の自宅の土砂災害警戒区域（レッドゾーン・イエローゾーン）について町防災専門員より聞き、介護支援専門員に伝え、ケアプランに避難行動を記載してもらう。ケアプランセンターあかねの郷16件、日南病院居宅18件：ケアプランに避難行動について記載した】

(3) 地域包括ケア会議に地域住民（各種組織・団体代表等）を招集し、住民とともに地域課題への取り組みを検討、実施する

【福栄地域見守り連絡会2回、阿毘縁地域見守り連絡会1回、介護支援専門員が参加した】

(4) 地域包括ケアシンポジウムを開催し、在宅医療・介護連携等について住民へ啓発する

【11月5日 日南病院主催住民シンポジウムにおいて活動発表した】

(5) 離れて暮らす家族に対して、医療・介護・生活支援サービス・相談先等の周知のためのチラシを配布しその他の方法についても検討する

【日南病院地域連携室や介護支援専門員から対象者に配布してもらう。日南町ホームページにも掲載している。10月ふるさとまつりで展示啓発を行った。11月日南病院60周年住民シンポジウムでチラシの内容を啓発した】

【在宅生活を断念することになるきっかけとして、高齢者の6つの生活課題を支え愛ネットワーク活動や百歳体操の集いで目標づくりの際に紹介した。離れて暮らすご家族の方へのパンフレットも配布し、見守りなどのサービスや関係者の活動を周知した。】

【介護支援専門員からの配布機会は今のところなし、病院連携室でも配布の機会が乏しいことから、福祉保健課による新規介護認定の説明時に配布する】

3. 高齢者向け住まいの整備について検討し、町へ提言する

(1) 生活面に困難を抱える高齢者について、どのようなニーズがあるのかを把握する

【令和4年度高齢者ニーズ調査にて住まいについて調査、現在結果集計中】

- (2) 日南町で暮らし続けるために、どのような住まいが必要か地域住民と考える機会を作る
【実績なし】

4. 在宅生活を支援する制度を住民が活用できるように企画推進する

- (1) 介護予防・日常生活支援総合事業について、平成 27 年からの実績評価や他市町村との比較による評価を行う
【企画会議において比較検討している】
- (2) 介護保険以外に医療保険や新しい制度・資源等のサービスについて職員が学ぶ
【生活支援コーディネーターが、除雪について情報収集を行った。】
【9 月日南町介護予防・生活支援体制整備推進協議会を実施。(住民組織代表者 26 人、関係者 12 人、計 38 人の参加。) 10 月から始まる新たなデマンド交通等について講話、グループワークを行い、移動支援について理解を深め、検討を行った。終了後のアンケートでは、92%が新たなデマンド交通について理解出来たと回答あり】
- (3) 第 8 期介護保険計画の進捗状況を確認・評価する
【年 2 回進捗状況を確認し、評価を行っている】
- (4) 住民の介護サービス利用への抵抗感を減らし利用しやすくするため、介護サービスのプロモーションDVDを活用し広報する
【ケーブルテレビ、病院待合室、YouTube で広報した】

5. フレイル予防を推進する

- (1) 新しい生活様式を踏まえた健康づくりについて啓発する
【百歳体操会場へ出向き、目標づくりの際、6 つの生活課題等について説明した。
10 月 29・30 日にちなんふる里まつりにて、転倒予防と 6 つの生活課題についてのパンフレットを作成し、啓発した】
【百歳体操の集いで、日南病院 P T による体力測定を初めてリモートで実施した。
大宮、阿毘縁、山上、多里地域。20 会場、153 人に実施。体力測定の後、保健師が体力測定の結果返しと目標づくりに出向いた。】
- (2) フレイル予防について、町内の栄養士、食育を推進するボランティアと連携して啓発する
【国診協モデル事業「ご近所食事会」について、福栄まち協、阿毘縁まち協、多里まち協へ提案した。多里まち協のご近所サポーター(民生委員他)、包括(栄養士他)、日南病院で実施 参加者数 15 人】
- (3) 通所型サービス C・訪問型サービス C・リハビリ特化型デイサービスの介護予防効果を検証する
【9 月 6 日介護予防事業打ち合わせにおいて、サービス C の現状や課題の共有をし、令和 5 年度に向けたサービス C の運用方法を検討した】

6. 認知症高齢者支援について支援体制を整える

(1) 出前講座隊、認知症サポーター養成講座、支え愛ネットワーク活動、映画上映会などで認知症の正しい理解の啓発を行う

○つどいの場に出向いて認知症について啓発を行う

【認知症についての出前講座を、6月16日、7月4日、2月22日の3回行った。】

○小学校・中学校・事業所等で認知症サポーター養成講座を継続して実施する。

【小学校では、4年生20人を対象に10月4日認知症サポーター養成講座を45分×2時限実施した。グループワークに熱心に取り組んでいた。

中学校では、2年生16人を対象に12月22日に1時限を担当し、実施した。】

○認知症啓発漫画冊子を作製したので、啓発に活用する

【認知症啓発漫画冊子を、中学校での認知症サポーター養成講座で使用、12月17日開催の認知症啓発映画上映会で配布した。

町報に漫画記事掲載を2回行った 認知症施策作業部会で今後のストーリーを検討しており、令和5年度中に完結予定。】

○認知症啓発映画上映会を通して認知症についての理解を深める

【12月17日(土)「ぼけますからよろしくお願ひします～おかえりお母さん～上映会と信友監督ミニ講演会」を開催し、町内外からの参加もあり142人が参加した。】

(2) 認知症初期集中支援チーム活動がどの程度有効であったか、活動内容や方法、チームの介入後の効果について評価、検証する

【3月2日認知症施策作業部会、3月16日第5回初期集中支援チーム員会議にて、令和4年度の初期集中支援事業について振り返りと検討を行い、これまでの事業の評価、検証を行った】

○DASC等活用して、本人・家族負担の評価をしていく

【個別相談のケースに対して、事前情報をDASK等の評価表を活用し、チーム員で情報共有、検討している。】

○相談経路としてどこから相談が多いかなどを集計し検証する

【令和4年度の相談経路としては、本人・家族が最も多かった。無線放送での周知により自発的に申し込んだ人が多かった。】

(3) 認知症ケアパスの活用の仕方を検討し提案する

【認知症サポーター養成講座で教材として使用する。パセオ休憩所やふる里祭りで自由に持ち帰れるパンフレットとして置いた。9月のアルツハイマー啓発月間に図書館で認知症啓発コーナーを設け、関係図書とともに展示した。】

○認知症ケアパスを改定したので、関係機関と共有し活用する

【令和3年3月に関係者を対象に行った認知症相談窓口周知度アンケートの結果報告書に改訂ケアパスを添え、参考資料として配布した(325部)。】

(4) 認知症サポーターの協力を得て認知症カフェ等を開催する

【認知症カフェ2か所の運営に、認知症サポーター3名の協力を得て実施した。】

令和5年度に向けては「オレンジカフェ～ねえ・きいて～」は中止とし、「多里にここカフェ」は、認知症サポーターであり民生児童委員でもある2名の参加者を中心

として、多里まちづくり協議会支え愛部の事業に位置づけ、自主運営の方向で継続していくこととなった。】

7. 人生の最期まで自分らしく暮らす意識を持ち、周りの人がそれを応援する意識を持つための啓発を行う

(1) 出前講座隊で啓発を行う

【「看取りケア」についての出前講座を2度開催（講師：日南福社会 入澤施設長）。またその様子が町内のミニコミ紙の記事に掲載された】

(2) もしもの時のしあわせノートを気軽に記入できるようダイジェスト版を作成し、活用を促す

【年度中に完成し、新規の要支援認定・事業対象者に介護保険ファイルとともに配布】

(3) ACPについて住民啓発に取り組むため、まずは関係機関で町内の現状を共有する

【未実施】

(4) 「看取り」をテーマにシンポジウムを開催し、住民への啓発を行う

【未実施、次年度実施に向けて検討】

8. 小・中・高校生に保健・医療・介護・福祉に興味をもってもらおう

(1) シンポジウムや映画上映会への参加ができるように働きかける

【認知症映画上映会のチラシを小中学校児童生徒数準備して各家庭に持ち帰ってもらった。小中学校児童生徒の参加は少なかった。】

(2) 小学校4年生・中学校2年生への福祉教育を継続実施する

【日南小学校4年生を対象に、10月4日：認知症サポーター養成講座、10月14日：高齢者の健康づくり・いきいき100歳体操の紹介・ノルディックウォークの体験と交流、11月1日：高齢者疑似体験と車いす体験を行った。（45分×2時限×3回）

鳥取県社協延2人、日南町社協延3人、日南病院PT1人、ノルディックウォーク連盟公認指導員2人、ノルディックボランティア8人、生活支援ボランティア6人（看護師、保健師、子育て支援関係OB）の協力を得た。共に学ぶ機会となった。

日南中学校では、2年生を対象に認知症サポーター養成講座を、2年生を対象に12月22日に1時限を担当し、実施した。】

(3) 小・中・高校生が保健・医療・介護・福祉の現場にふれる機会を設ける

【・日野高生が介護予防Eスポーツの指導員資格を取得し普及に取り組んでいることから、10月19日花口のつどいの場に招き、体験・交流を行った。

・小・中学校の総合学習で、加齢による心身の変化や障がいについて学ぶ中で、多くの専門職やボランティアと出会い、交流する機会となった。

・町社協が運営する放課後児童クラブに町内高校生が有償ボランティアが支援に入っている。現在8名の登録がある】